

あきまろに答ふ

正岡子規

青空文庫

「も」の字につきて質問に御答申候。「も」の字は元來理窟的の言葉にて、俳句などにては「も」の字の有無を以て月並的俗句なるか否かを判ずる事さへある位に候へども、さりとして「も」の字ことごと尽く理窟なるにも無之候。拙作に対する質問に答へんは弁護がましく聞えて心苦しき限りながら、議論は議論にて巧拙の評にあらねば愚意こころみ試もうしに可申述候。

「も」の字にも種類ありて「桜の影を踏む人もなし」「人も来ず春行く庭の」かばね「屍をさむる人もなし」などいへる「も」は殆ど意味なき「も」にて「人なし」「人来ず」といへると大差なければ理窟をば含まず、また「梅咲きぬあゆ鮎ものぼりぬ」の「も」は梅と

鮎とを相並べていふ者なればこれも理窟には相成不申候。実朝さねとも

の「四方よもげだものの獸けだものすらだにも」はやや理窟めきて聞ゆる「も」にて

「老たかい行く鷹たかの羽たかばたきもせず」「あら鷹も君が御鳥屋みとやに」の二

つはややこれに似たる者に有之候。その理窟めきて聞ゆるは二事
二物を相對して言ふ意味ながら、一事一物をのみ現し他を略した
るがためにして、例へば獸だに子を思ふといふはまして人は子を
思ふといふことを含み、羽ばたきもせずといふはまして飛び去ら
んともせずといふことを含み、あら鷹もといふはその外の鷹もと
いふ意を含むが如き者に候。しかしこの獸の歌も鷹の歌も全体理
窟づめにしたる歌には無之、悲哀感慨を述べたる者と見て差さしつか
支えなかるべく候。(羽ばたきもせずの歌やや理窟めきたるは

「ほだしにて」の語あるがためにして「も」の論とは異なり)

歌につきても今まで大体を示すに忙しく細論するの機なく候処、
「も」の字の实地論出で候まま「理窟」といふことをここに詳述
可致候。心理学者が普通にいふ如く心の働きを智情意の三に分て
ば、前日来「歌は感情的ならざるべからず」などいひし感情とは
この「情」の一部分にして、例の理窟とは「智」の一部分に相当
申候。しからば理窟とは「智」の如何なる部分かといふに画然と
その限界を示す能はあたざれども、要するに智の最も複雑したる部分
が程度の高き理窟にて、それが簡単になればなるほど、程度の低
き理窟となる訳に候。今まで用ゐたる理窟といふ語は最もつとも簡単な智
をば除きて言ひしつもりなれど、貴書の意は智と理窟とを同一に

見做なされたるかと覚え候。論理的に嚴肅に議論せんとする場合に
は後説の方あるいはよろしかるべく、さうすれば理窟の内でも低
度の理窟は文学的としてこれを許し、高度の理窟は非文学的とし
てこれを排斥する訳に相成申候。この低度の理窟即ち最簡單の智
とは記憶比較の類の如き者にして、如何なる純粹の文学的感情と
いへども、多少の記憶力比較力を交へざる時は文学として成り立
つ者には無之候。もし理窟の語を広義の方に用うれば、実朝の歌
の如きこれを理窟と言ひ得べく候へど、しかし余の標準に従ふて
判ずれば、これは許すべき理窟の部に属し申候。

かく申さば一方にて「すらだにも」の如きを許し、他の方にて
「も」の一字を蛇蝎だかつ視するは如何いかにとの不審起り可申候。それは左

の如き次第に候。いはでもの事ながら、主観的の歌は縦令感情たといを述べたる者なりとも、客観的の歌に比して智力を多く交へたるはあらそうべからざる不可争あの事に候。そは客観的の歌は受身の官能に依ること多けれど、主観的の歌はいくばくか抽象して現すの労あるがために候。実朝のけだもの歌の如き既に全体において主観的なるからに「すらだにも」の語さほど理窟ぼくよく聞えねど、全体客観的なる歌にただ一字の「も」の字ある時は極めて理窟ぼくよく殺風景に聞え申候。「も」の意善く響けば響くほど、益理窟ぼくくさく相成候。これは畢ひつきよう竟前後不調和なるがためにや候べき。余の蛇蝎視する「も」の字は客観的はさ歌中に挿まれたる「意味の強き「も」の字」の事に有之候。しかし前にも言ふ如く「梅も桜も」といふやうに、

二物以上相對物が文字上に現はれたる場合は理窟臭くさからず聞え候。
ついでに申もうしそえ添候。俳句にては「人もなし」といふ語を「人
なし」と同じく用うれど「人もあり」といふ語を用うれば「も」
の字理窟臭く相成候。これも和歌より来れりと思しく、和歌にて
「人もなし」「影もなし」といふは「も」に意味なけれど「……
人もありけり」といへば、世の中を喜ぶ人もあるが、世の中を厭いと
ふ人もあるといふやうに、相對物ある場合が多きやに覚え候。従
つて理窟くさく成りがちにて候。

(明治三十一年三月六日)

青空文庫情報

底本：「歌よみに与ふる書」岩波文庫、岩波書店

1955（昭和30）年2月25日第1刷発行

1983（昭和58）年3月16日第8刷改版発行

2002（平成14）年11月15日第26刷発行

入力：土屋隆

校正：川向直樹

2004年6月1日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

あきまろに答ふ

正岡子規

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>